

IV 宮 城 県 の 経 済 動 向

令和8年第1四半期

(1月～3月期)

I 概況

令和8年第1四半期(1～3月期)の宮城県の経済動向について、指標別にみると以下のとおりとなっている。

- ・ 生産は鉱工業生産指数が4期ぶりの上昇となった。
- ・ 住宅投資は貸家や持家の減少により4期連続の減少となった。
- ・ 公共投資は国や市町村などの発注工事が増加したことにより、2期連続の増加となった。
- ・ 個人消費では、百貨店・スーパー販売額は5期連続の増加、コンビニエンスストア及び専門量販店を加えた合計販売額(参考値)は6期連続の増加となった。乗用車新車登録・届出台数は普通車や小型車などの減少により3期連続の減少となった。仙台市消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は19期連続の上昇となった。
- ・ 雇用では、有効求人倍率が6期連続の低下、新規求人倍率が2期ぶりの低下となった。所定外労働時間は4期連続の増加、実質賃金指数は2期ぶりの低下、雇用保険受給者実人員は3期連続の増加となった。
- ・ 企業倒産件数は、3期ぶりの減少となった。

(単位：％、ポイント)

主要経済指標の推移(前期比(差)、前年同期比)		令和6年				令和7年				令和8年
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
生産	鉱工業生産指数 ※1 (前期比)	2.6	7.5	▲ 8.4	4.4	2.5	▲ 2.5	▲ 2.9	0.0	4.6
住宅投資	新設住宅着工戸数 (前年同期比)	▲ 11.1	30.9	▲ 1.4	7.8	16.7	▲ 56.0	▲ 29.1	▲ 24.9	▲ 10.8
公共投資	公共工事請負金額 (前年同期比)	▲ 4.3	▲ 3.8	▲ 3.1	▲ 15.9	4.0	12.6	▲ 1.2	41.7	31.6
個人消費	百貨店・スーパー販売額 ※2 (前年同期比)	4.2	0.5	▲ 0.5	▲ 0.7	0.5	1.1	1.4	1.2	2.1
	コンビニエンスストア販売額 (前年同期比)	0.5	▲ 0.6	▲ 2.7	0.1	2.6	3.6	4.4	3.0	1.2
	家電大型専門店販売額 (前年同期比)	2.5	4.3	▲ 3.9	▲ 2.9	5.7	2.2	1.8	7.7	7.6
	ドラッグストア販売額 (前年同期比)	9.2	7.5	5.2	6.4	6.3	8.5	8.7	11.1	8.4
	ホームセンター販売額 (前年同期比)	▲ 2.9	0.5	▲ 1.5	▲ 1.6	2.4	▲ 1.9	▲ 0.7	▲ 0.9	▲ 0.3
	計 ※3 (前年同期比)	3.5	1.7	▲ 0.4	0.5	2.6	3.0	3.4	3.7	3.4
乗用車(含軽)新車登録・届出台数 (前年同期比)	▲ 17.4	▲ 14.2	▲ 1.9	▲ 6.8	12.7	11.3	▲ 3.4	▲ 3.6	▲ 6.2	
仙台市消費者物価指数 ※4 (前年同期比)	3.0	3.2	2.7	2.9	3.6	3.8	3.4	2.9	1.8	
雇用	有効求人倍率 ※5 (前期差)	▲ 0.02	▲ 0.06	0.00	▲ 0.01	▲ 0.01	▲ 0.02	▲ 0.04	▲ 0.02	▲ 0.02
	新規求人倍率 ※5 (前期差)	0.03	▲ 0.12	0.04	▲ 0.05	0.07	▲ 0.05	▲ 0.09	0.03	▲ 0.01
	所定外労働時間 ※6 (前年同期比)	▲ 0.7	▲ 2.9	6.3	7.9	▲ 6.0	14.6	1.9	1.5	6.9
	実質賃金指数 ※6 (前年同期比)	3.5	2.2	1.1	7.2	▲ 4.4	1.2	▲ 0.9	0.2	▲ 0.6
	雇用保険受給者実人員 (前年同期比)	5.8	6.3	3.7	▲ 3.1	▲ 1.7	▲ 0.3	7.8	9.7	7.9
企業倒産	企業倒産件数 (前年同期比)	7.3	42.9	0.0	0.0	▲ 2.3	▲ 14.0	23.5	15.2	▲ 14.0

- ※1 令和2年=100。
- ※2 全店舗比較による。
- ※3 各公表値(端数処理済)の合算による概算値(参考)。
- ※4 令和2年=100。生鮮食品を除く総合指数。
- ※5 単位はポイント。
- ※6 令和2年=100。事業所規模30人以上、製造業。実質賃金は現金給与総額。

II 主な指標の動き

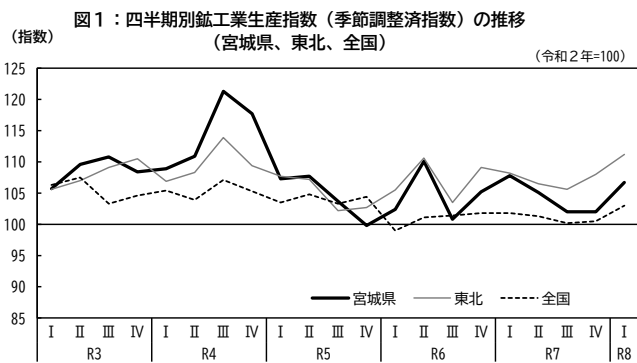
1 生産

○ 鉱工業生産指数

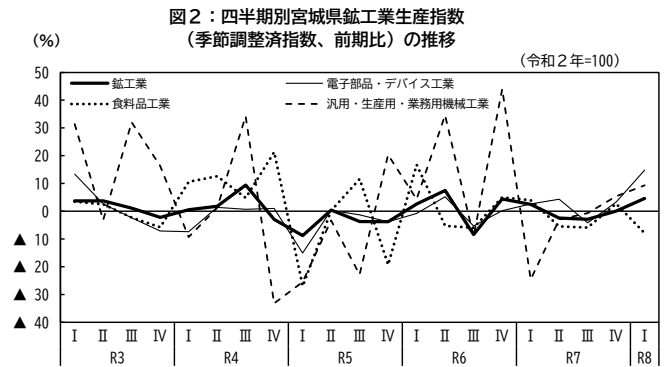
令和8年第1四半期(1~3月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は106.7(令和2年=100)で、前期比が4.6%の上昇となり、4期ぶりの上昇となった(図1、図2)。

ウェイトの大きい業種を中心に前期比をみると、電子部品・デバイス工業は14.8%上昇し、2期連続の上昇となった。汎用・生産用・業務用機械工業は9.3%上昇し、2期連続の上昇となった。食品工業は7.9%低下し、2期ぶりの低下となった。(図2)

前年同期比(原指数での比較)では1.1%の低下となり、2期連続の低下となった。



(資料:宮城県統計課)



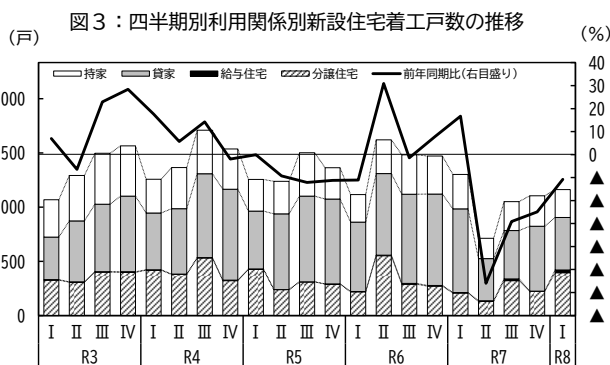
(資料:宮城県統計課)

2 住宅投資

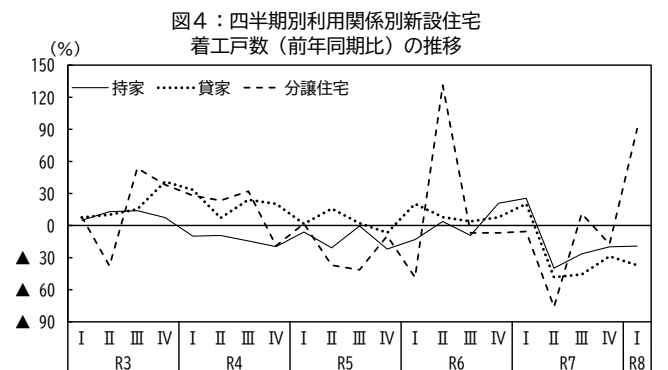
○ 新設住宅着工戸数

令和8年第1四半期(1~3月期)の新設住宅着工戸数は3,484戸で前年同期比が10.8%の減少となり、4期連続の減少となった(図3)。

利用関係別に前年同期比をみると、貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は37.2%減少し、4期連続の減少となった。持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は19.3%減少し、4期連続の減少となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は90.7%増加し、2期ぶりの増加となった。(図4)



(資料:国土交通省)



(資料:国土交通省)

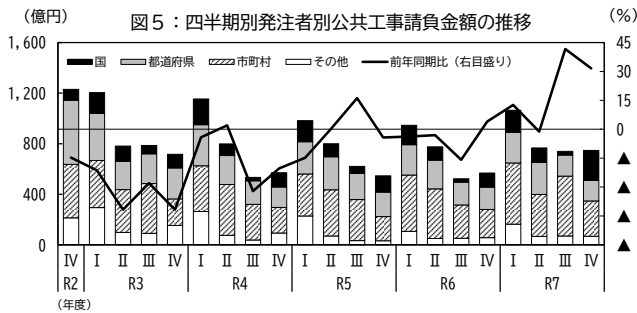
3 公共投資

○ 公共工事請負金額

令和7年度第4四半期(1~3月期)の公共工事請負金額は746億53百万円で、前年同期比が31.6%増加し、2期連続の増加となった(図5)。

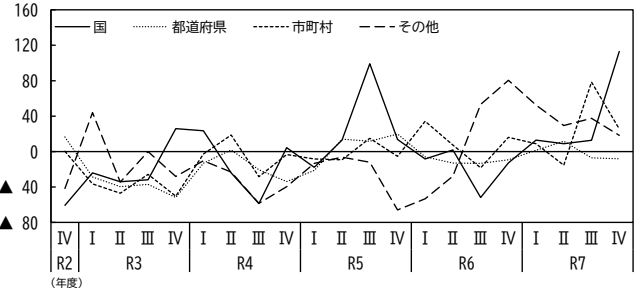
発注者別に前年同期比をみると、国は113.0%増加し、4期連続の増加となった。市町村は25.6%増加し、2期連続の増加となった。その他(独立行政法人等、地方公社、その他)は18.4%増加し、6期連続の増加となった。都道府県は8.2%減少し2期連続の減少となった。(図6)

※ 公共工事請負金額は、年度をベースにしているため、動向や資料は年度を基準としています。



(資料:東日本建設業保証(株))

(%) 図6:四半期別発注者別公共工事請負金額(前年同期比)の推移



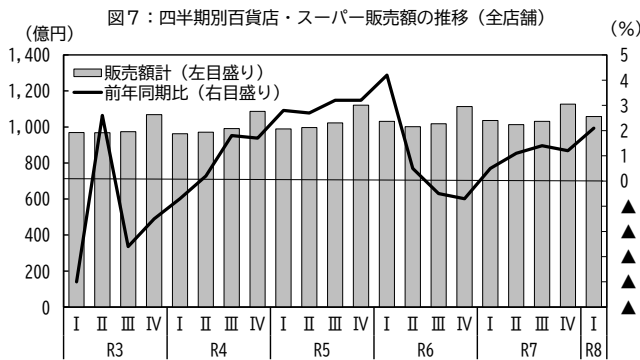
(資料:東日本建設業保証(株))

4 個人消費

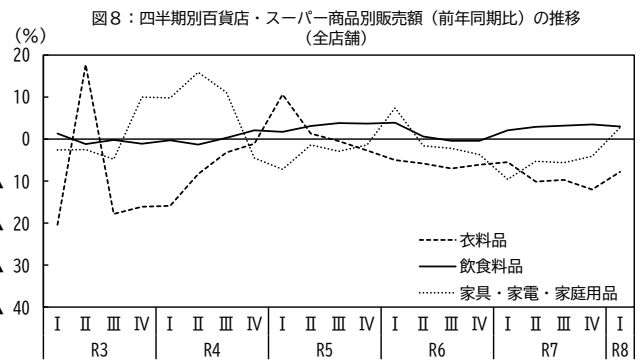
(1) 百貨店・スーパー販売額

令和8年第1四半期(1~3月期)の百貨店・スーパー販売額は1,058億41百万円で、全店舗比較の前年同期比は2.1%増加し、5期連続の増加となった(図7)。既存店比較の前年同期比は0.3%の減少となり、2期連続の減少となった。

商品別に前年同期比(全店舗比較)をみると、飲食料品は3.0%増加し、5期連続の増加となった。その他商品(医薬品、化粧品、洗剤、書籍等)は1.6%増加し、3期ぶりの増加となった。家具・家電・家庭用品は2.8%増加し、8期ぶりの増加となった。身の回り品は1.4%増加し、2期ぶりの増加となった。食堂・喫茶は3.2%増加し、4期連続の増加となった。衣料品は7.8%減少し、11期連続の減少となった。(図8)



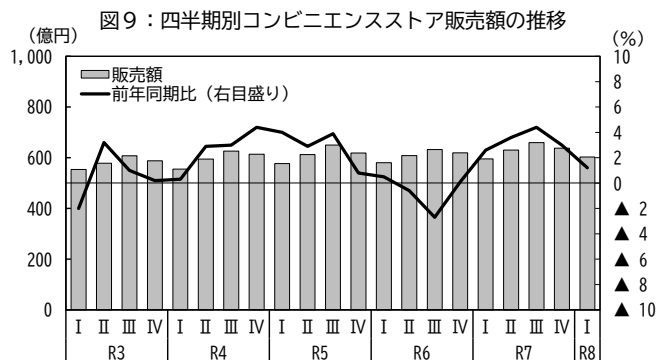
(資料:東北経済産業局)



(資料:東北経済産業局)

(2) コンビニエンスストア販売額

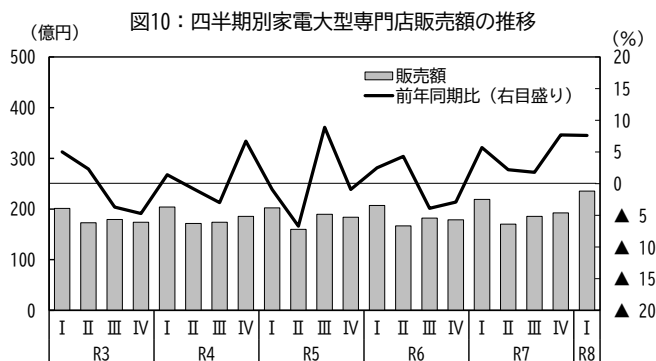
令和8年第1四半期(1~3月期)のコンビニエンスストア販売額は602億70百万円で、前年同期比は1.2%増加し、6期連続の増加となった(図9)。



(資料:東北経済産業局)

(3) 家電大型専門店販売額

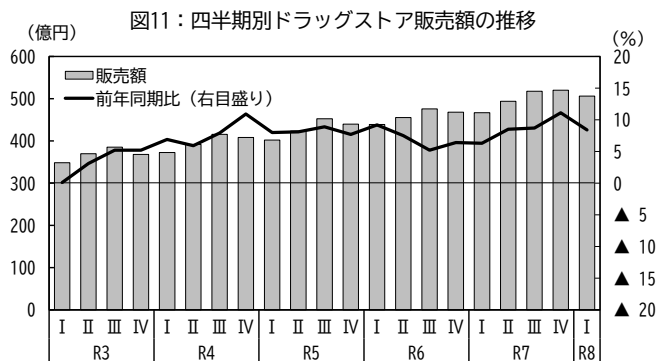
令和8年第1四半期(1~3月期)の家電大型専門店販売額は235億50百万円で、前年同期比は7.6%増加し、5期連続の増加となった(図10)。



(資料:東北経済産業局)

(4) ドラッグストア販売額

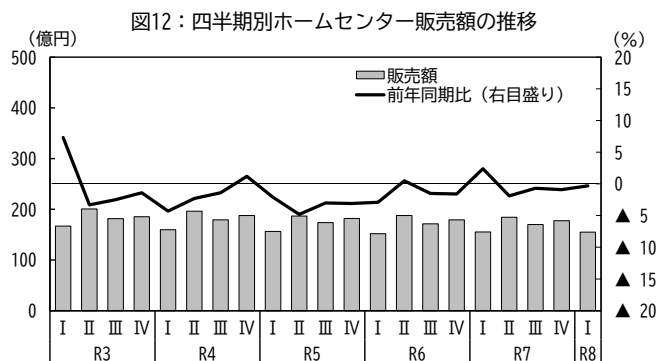
令和8年第1四半期(1~3月期)のドラッグストア販売額は505億88百万円で、前年同期比は8.4%増加し、40期連続の増加となった(図11)。



(資料:東北経済産業局)

(5) ホームセンター販売額

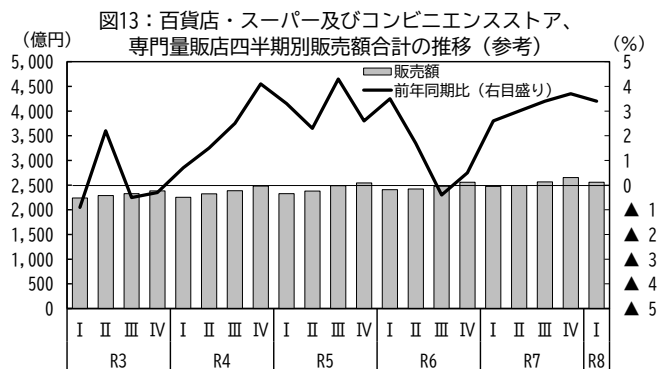
令和8年第1四半期(1~3月期)のホームセンター販売額は154億73百万円で、前年同期比は0.3%減少し、4期連続の減少となった(図12)。



(資料:東北経済産業局)

(6) 百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額(参考)

令和8年第1四半期(1~3月期)の百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額の合計(概算による参考値)は2,557億22百万円で、前年同期比は3.4%増加し、6期連続の増加となった(図13)。



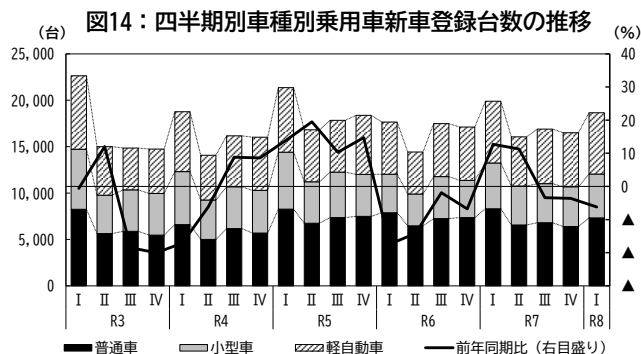
(資料:東北経済産業局)

※(1)~(5)各公表値(端数調整済)の合算による概算値。

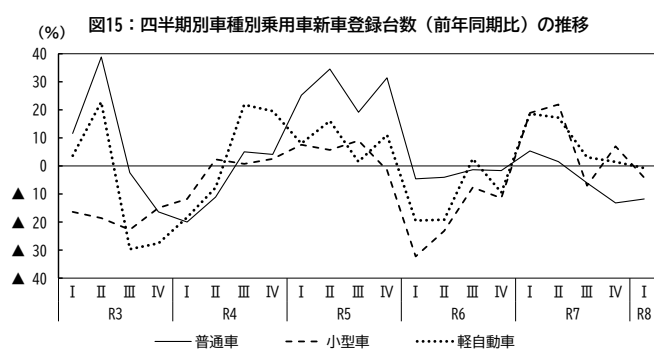
(7) 乗用車新車登録及び届出台数

令和8年第1四半期(1~3月期)の軽自動車新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万8,650台で、前年同期比が6.2%減少し、3期連続の減少となった(図14)。

車種別に前年同期比をみると、普通車は11.8%減少し、3期連続の減少となった。小型車は4.2%減少し、2期ぶりの減少となった。軽自動車は0.8%減少し、5期ぶりの減少となった。(図15)



(資料:東北運輸局、全国軽自動車協会連合会)



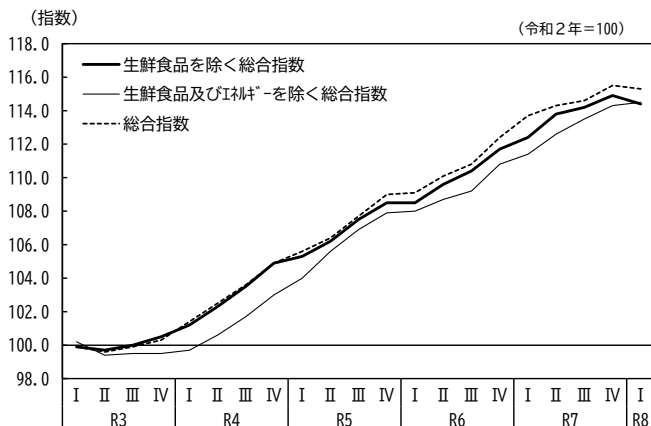
(資料:東北運輸局、全国軽自動車協会連合会)

(8) 仙台市消費者物価指数

令和8年第1四半期(1~3月期)の仙台市消費者物価指数(令和2年=100)は、生鮮食品を除く総合指数は114.4で、前期比が0.4%低下し、19期ぶりの低下となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は114.5で、前期比が0.1%上昇し、17期連続の上昇となった。総合指数は115.3で、前期比が0.2%低下し、19期ぶりの低下となった。(図16)

前年同期比では、生鮮食品を除く総合指数は1.8%上昇し、19期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は2.8%上昇し、16期連続の上昇となった。総合指数は1.4%上昇し、19期連続の上昇となった。

図16：四半期別仙台市消費者物価指数の推移



(資料:宮城県統計課)

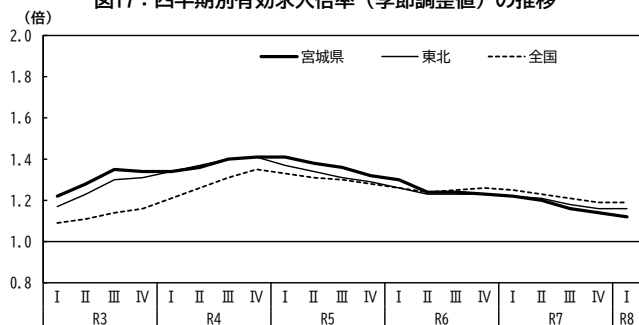
5 雇用

(1) 求人倍率

令和8年第1四半期(1~3月期)の有効求人倍率(季節調整値、1~3月平均値)は1.12倍で、前期を0.02ポイント下回り、6期連続の低下となった(図17)。

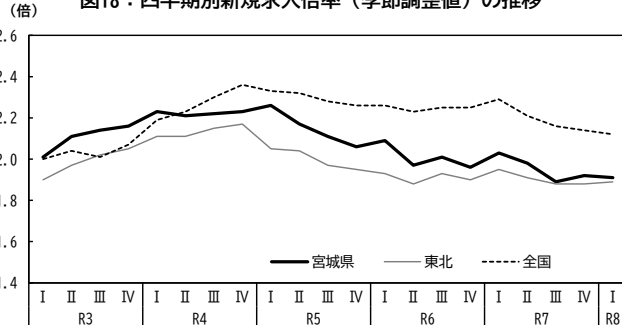
新規求人倍率(季節調整値、1~3月平均値)は1.91倍で、前期を0.01ポイント下回り、2期ぶりの低下となった(図18)。

図17：四半期別有効求人倍率(季節調整値)の推移



(資料:宮城労働局)

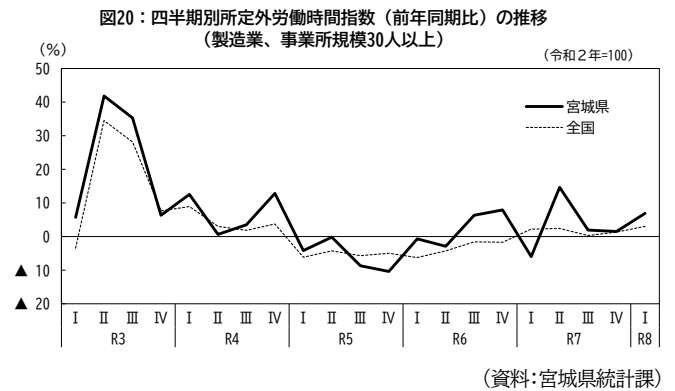
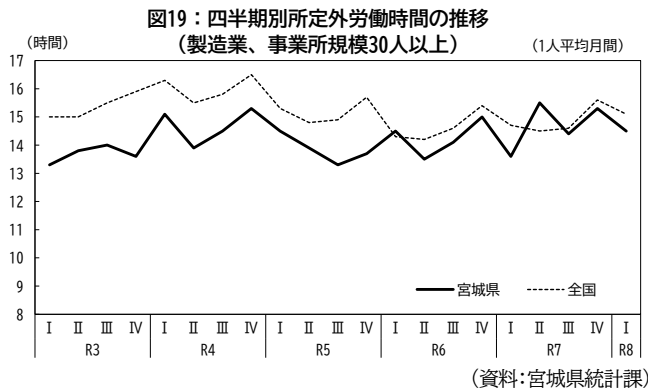
図18：四半期別新規求人倍率(季節調整値)の推移



(資料:宮城労働局)

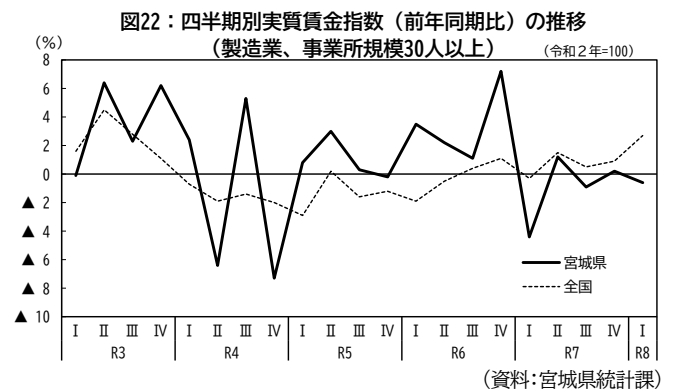
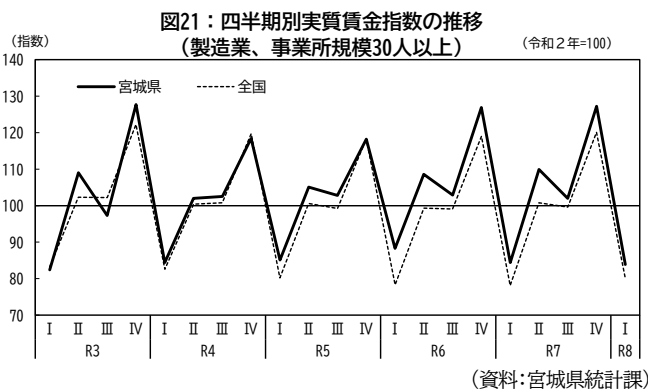
(2) 所定外労働時間

令和8年第1四半期(1~3月期)の所定外労働時間(製造業、事業所規模30人以上、1人平均月間)は14.5時間で(図19)、前年同期比(指数、令和2年=100)は6.9%増加し、4期連続の増加となった(図20)。



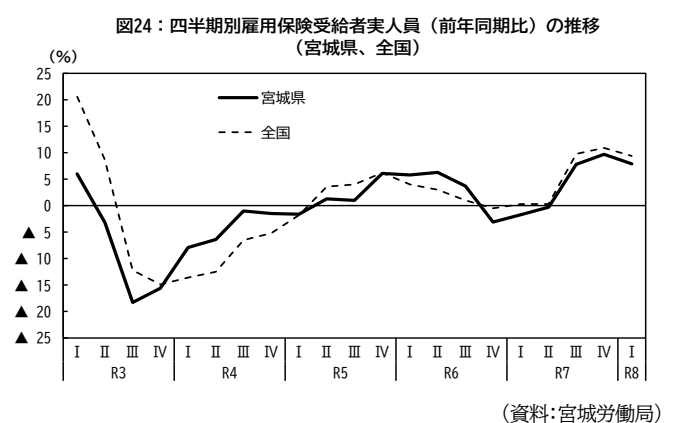
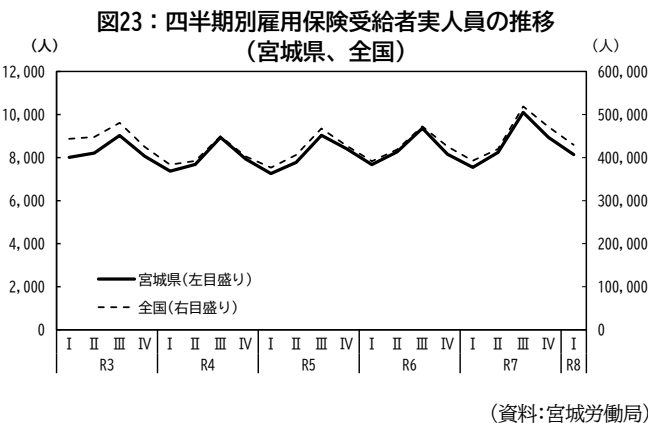
(3) 実質賃金指数

令和8年第1四半期(1~3月期)の実質賃金指数(製造業、令和2年=100、事業所規模30人以上)は83.9で(図21)、前年同期比は0.6%低下し、2期ぶりの低下となった(図22)。



(4) 雇用保険受給者実人員

令和8年第1四半期(1~3月期)の宮城県の雇用保険受給者実人員は8,143人で(図23)、前年同期比は7.9%増加し、3期連続の増加となった(図24)。



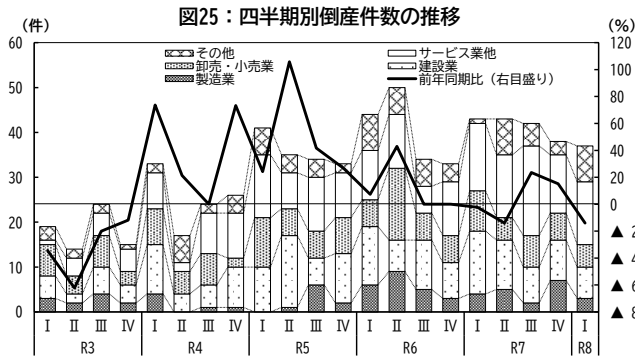
6 企業倒産

令和8年第1四半期(1~3月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は37件で、前年同期比は14.0%減少し、3期ぶりの減少となった(図25)。

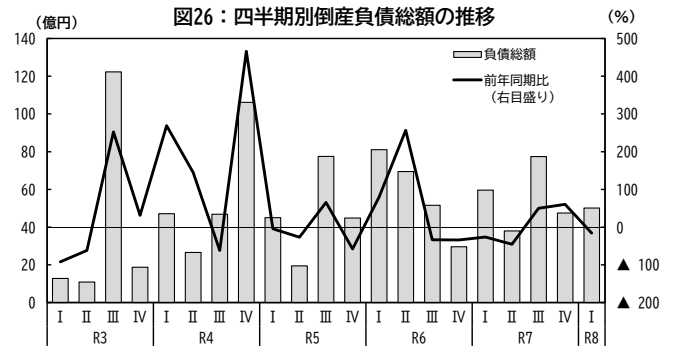
負債総額は50億7百万円で、前年同期比は16.0%減少し、3期ぶりの減少となった(図26)。

これらのうちの不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ(赤字累積))の件数は27件で、前年同期比は25.0%減少し、3期ぶりの減少となった。件数の構成比は73.0%で、前年同期より10.7ポイントの減少となった。

大型倒産(負債総額10億円以上)は発生しなかった。



(資料:(株)東京商工リサーチ)



(資料:(株)東京商工リサーチ)